

# 第102回 ふじのくに防災学講座

- 日 時 平成29年11月5日(日) 10時30分~12時00分
- 会 場 静岡県地震防災センター (静岡市葵区駒形通5丁目9-1)

## テーマ 『津波を知り、津波に備える』

## 講師 静岡地方気象台長 中村 浩二さん

### (講演概要)

11月5日は津波防災の日です。これは、1854年の安政南海地震の際に、稲わらに火をつけて、暗闇の中で逃げ遅れた人たちの命を救った「稲むらの火」の逸話にちなんで制定されました。

「稲むらの火」の時代に比べて、現代は科学技術が進歩し、ハード面、ソフト面で津波対策は進みましたが、未だ私たちは津波の脅威にさらされています。あらためて、津波について知っていただき、津波から命を守る備えをしていただきたいと思います。

なお、あわせて11月1日から運用開始される「南海トラフ地震に関連する情報」についての説明も行う予定です。



## 講演要旨

### ○津波防災の日について知る

東日本大震災を教訓として制定された「津波対策の推進に関する法律」で、11月5日は「津波防災の日」と定められています。これは、1854年の安政南海地震の際に、稲わらに火をつけて、暗闇の中で逃げ遅れた人たちの命を救った「稲むらの火」の逸話にちなんで制定されました。この話はラフカディオ・ハーンの作った物語や小学校の国語の教材として有名です。モデルとなった濱口梧陵は、地震の後にも被災者の救済や被害を受けた村の復興に尽力するとともに、将来の津波から村を守るために堤防を建設しました。

### ○津波という現象について知る

津波から身を守るためには、津波という現象について基本的な知識を身につけておくことが重要です。津波は、海底で地震が発生した際に、海底面の変動がその上の海水に伝わり、波となって沿岸に伝わる現象です。津波には、水深が深いほど伝わる速度が速い、沿岸に近づいて水深が浅くなるほど津波の高さが高くなる、湾の奥や半島の先端など地形によって高さが高くなるなどの性質があります。津波は、沿岸でもとても速く伝わるので、津波を見てから逃げるのでは間に合わない可能性があることや、高さ 50cm 程度の津波でも非常に大きな力を持っていることなどにも注意が必要です。

### ○津波警報について知る

気象庁は、津波からの避難のために、海域で大きな地震が発生して津波が沿岸を襲う可能性がある場合には、津波警報や津波注意報を発表します。現在は、全国に展開した地震観測網で 24 時間体制で地震の発生状況を監視し、大きな地震が発生した場合には、短時間で震源やマグニチュードを決定します。そして、その結果をもとに概ね地震後 3 分程度を目処として津波警報を発表しています。津波の予測には、数値シミュレーションの技術を用い、データベース方式で沿岸の津波予報区毎に予想される津波の高さを推定して、津波警報を発表しています。

### ○津波から命を守るための備え

津波から命を守るためには、迅速な避難が重要です。そのためには、平時から津波ハザードマップや津波の危険性を示す標識等で地域における津波の危険性を知っておくことが重要です。そして、実際に津波警報を見聞きしたり強い地震の揺れを感じたりした場合には、津波避難場所や津波避難ビル等の安全な場所に迅速に避難してください。

平成29年11月1日から

# 「南海トラフ地震に 関連する情報」

の発表をはじめました

気象庁では、中央防災会議防災対策実行会議における「南海トラフ沿いの地震観測・評価に基づく防災対応検討ワーキンググループ」の報告を受け、新たな防災対応が定められるまでの当面の間、「南海トラフ地震に関連する情報」を発表することとしました。

この情報は、平成29年11月1日から運用を開始しました。

## 情報の種類と発表条件

情報名	情報発表条件
南海トラフ地震に関連する情報(臨時)	<ul style="list-style-type: none"><li>○南海トラフ沿いで異常な現象※1が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合</li><li>○観測された現象を調査した結果、南海トラフ沿いの大規模な地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと評価された場合</li><li>○南海トラフ沿いの大規模な地震発生の可能性が相対的に高まった状態ではなくなったと評価された場合</li></ul>
南海トラフ地震に関連する情報(定例)	<ul style="list-style-type: none"><li>○「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」※2の定例会合において評価した調査結果を発表する場合</li></ul>

※1: 南海トラフ沿いでマグニチュード7以上の地震が発生した場合や東海地域に設置されたひずみ計に有意な変化を観測した場合などを想定

※2: 南海トラフ全域を対象として地震発生の可能性を評価するにあたって、有識者から助言いただくために開催

「南海トラフ地震に関連する情報(臨時)」が発表されたときは、日頃からの地震への備えを再確認してください。

(地震への備えの例)

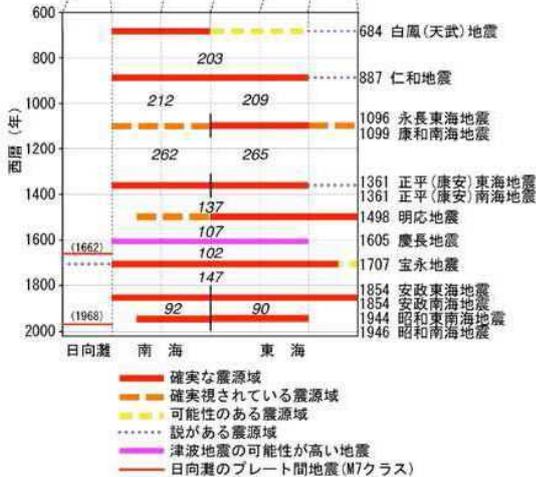
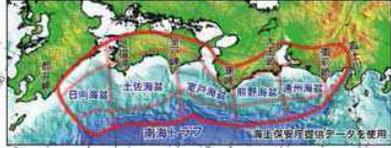
家具の固定、避難場所・避難経路の確認、家族との安否確認手段の取決め、家庭における備蓄の確認

○本情報の運用開始に伴い、東海地震のみに着目した情報(東海地震に関連する情報)の発表は行いません。

○本情報を発表していなくても、南海トラフ沿いの大規模地震が発生することもあります。

「南海トラフ沿いの地震観測・評価に基づく防災対応検討ワーキンググループ」の報告書は、内閣府のホームページからご覧ください。 [http://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/taio\\_wg/taio\\_wg.html](http://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/taio_wg/taio_wg.html)

# 南海トラフ地震とは



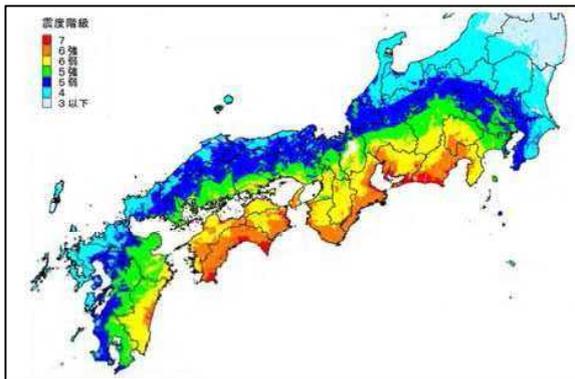
駿河湾から遠州灘、熊野灘、紀伊半島の南側の海域及び土佐湾を経て日向灘沖までのフィリピン海プレート及びユーラシアプレートが接する海底の溝状の地形を形成する区域を「南海トラフ」といいます。

この南海トラフ沿いのプレート境界を震源とする大規模な地震が「南海トラフ地震」です。南海トラフ地震は、おおむね100～150年間隔で繰り返し発生していますが、その発生間隔にはばらつきがあり、震源域の広がり方には多様性があることが知られています。

昭和東南海地震及び昭和南海地震が起きてから70年以上が経過しており、南海トラフにおける次の大規模地震発生の可能性が高まっています。

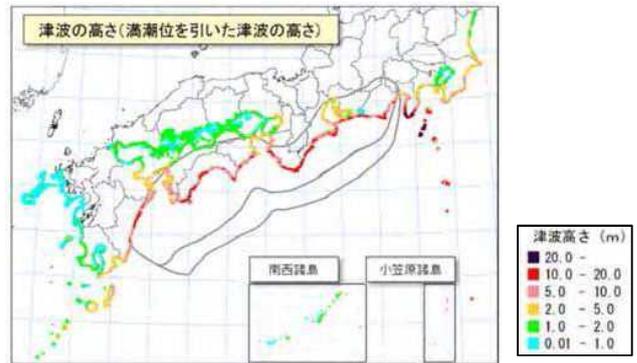
## 南海トラフ地震の震源域の時空間分布

「南海トラフの地震活動の長期評価(第二版)」(地震調査研究推進本部)



### 想定震度分布

(複数の想定されるケースの最大値の分布)



### 想定津波高

「駿河湾～愛知県東部沖」と「三重県南部沖～徳島県沖」

「南海トラフ巨大地震の被害想定(第二次報告)」(内閣府)

に「大すべり域+超大すべり域」を2箇所設定した場合

ここで示した想定される震度分布と津波高は、様々なケースが想定されるうちの一例を示したものです。これより大きな震度、高い津波となる場合もあります。



**南海トラフ地震防災対策推進地域**  
(南海トラフ地震により著しい被害が生ずるおそれのある地域)

南海トラフ巨大地震※の想定震源域  
※南海トラフ沿いにおいて、科学的に想定しうる最大規模の地震

(内閣府資料に一部加筆)

○お問い合わせ先  
気象庁 地震火山部 地震予知情報課  
〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4  
電話:03-3212-8341(代表)

# あつ！地震だ

どうしたらいいの？

まずは揺れから身を守ろう！



安全な場所に避難

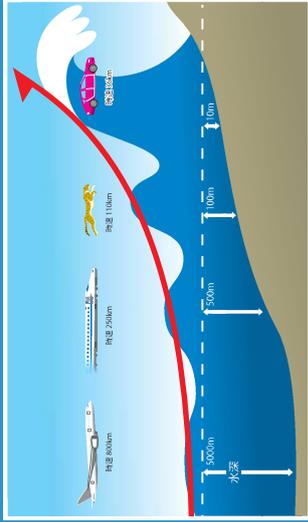


姿勢を低くして身を守る



かばいや本などで頭を守る

「より高いところ」を目指して逃げよう！



津波はとても速いので、津波を見てから逃げたのでは間に合いません。津波は海の深いところではジェット機ぐらいの速さで襲ってきます。

「車で逃げれば大丈夫」と思っていないませんか？車を利用した場合、渋滞などにより円滑に避難できない恐れがあります。原則、徒歩で避難しましょう。



避難所ではなく目指すところは避難場所！

どこで津波の被害に遭うかわかりません。津波から逃げるために、お住まいの地域や旅行先の「津波の避難場所」を確認しておきましょう。また、日頃から色々な場面を考えて、避難経路やいざという時の行動などを家族や周りの人と話し合っておくことが大切です。（避難所はその後の避難生活を送るための場所なので、切迫した災害の危険から逃げるための避難場所とは異なります。）

逃げ急げ！！

# 津波 防災

深める知識 高める意識

T S U N A M I B O S A I



気象庁



津波について正しく理解し、津波防災への意識を広め、大切な命を守りましょう！  
平成23年(2011年)の東日本大震災による津波被害を踏まえ、日本では「津波防災の日」が閣議決定され、国連総会では「世界津波の日」が採択されました。これにより、全国各地で様々な取り組みが実施されています。訓練などに積極的に参加しましょう。

津波防災ひるめ券 (内閣府提供)

気象庁

気象庁 地震火山部管理課地震津波防災対策室  
〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4  
TEL: 03-3212-8341 (代表) FAX: 03-6689-2917 (耳の不自由な方向け)

津波の情報について (気象庁ホームページ) <http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/joho/tsunamiinfo.html>  
津波防災啓発ビデオ「津波からにげる」[http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tsunami\\_dvd/](http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tsunami_dvd/)

このリーフレットは印刷用の紙にリサイクルできます。

(2017)

